

ESSENTIAL MAGAZINE.

もっとバカになれ

アーティスト myRs さん
活動再開によるインタビュー。
過去から現在、そして今後の展開まで
赤裸々に語ってくれました。

06 JUNE 2024 エッセンシャルマガジン
人生に欠かせないもの

編集者のつぶやき
未来について考える

InterviewFile vol.007

もっとバカになれ

デザイナー日記
正解のない世界で見つける正解







編集者のつぶやき

未来について考える

会社を初めて、早くも3年半が過ぎた。言い換えると、会社員をやめて3年半が経過した。経営者になると、周りの見方も少しばかり変わるというが、正直なところどうだろう。振り返っても、結局変わるべきは自分自身だと痛感する出来事の方が多かった気がする。3年も経てば落ち着くかと思えば、全くそんな気配はない。むしろ、試行錯誤の回数が増えていくばかり。選択をする毎日には、心が少しばかり強くなった気がする。正しい選択とは何かなんて考えても分からない。仮にその時の決断が間違っていたと分かっても、それを修正する他ないのも事実。だめでしたという言葉で片付けれるほど甘い世界じゃないと、何度心が折れそうになったことか。書きながら何を振り返っているんだと思いつつ、キータッチが早くなっているのが、正直さをものがたっているかもしれない。正直になればなるほど大変な思い出もたくさんあるが、それが楽しかったりもする。単純に見えているだけの目の前の現実が、感情に直結するわけじゃないということも成長の証なのかもしれない。人って幾つになっても成長を実感できるものなんだろう。ありがたい話だ。

会社をやっている中で最も変化したのは、時間の使い方だ。むしろ、会社員時代の時間の使い方が残念すぎたかもしれないと、それはそれで反省している。結局立場が違っても、根本的な部分は変わらないということだろう。たらればで次の課題をつけるのは、あまりよくないということかもしれない。誰かの参考になれば嬉しい。僕の場合は、子どもが生まれたばかりの時に起業した。妻が妊娠中に起業を決意し、結局生まれて独立をした。正直なところ細かいことは記憶になくパタパタしていたが、おそらく些細なことでイライラしていた気がする。家族との時間を作らなきゃという気持ちと、事業計画と向き合う毎日に、必死で何を考えていたかも覚えていない。これが起業家のリアルだと言えば、その通りだろう。常に様々な感情が入り乱れているのも、起業家

あるあるかもしれない。決して今の自分が余裕あるわけではないものの、家族との時間を心から楽しめたり、子どもの成長をリアルタイムで見れることには感動を感じるようになってきた。学生の時の思い出って今でも色褪せないのは、その瞬間に全力だったからだと思う。結局のところ、目の前に全力でいられるかがポイントなんだろう。どうせ同じ時間を過ごすなら、もっと有効に活用したいものだ。

4年目を迎えるにあたり、色々和未来について考えてみた。会社は誰のもの、なんて昔懐かしのフレーズが頭を過ったが、自分の会社みたく小さいところであれば、その会社に属する全員のものだというのが自分なりの結論になった。誰か1人でも欠ければ会社は行き詰まっていくのが零細企業の大きな特徴であり、全員の団結が必要であることもポイントだと思っている。小さなことからコツコツと、なんて何万回擦ったフレーズでも、そこに意味があるとわかるには、結構な道のみを歩んでいることに気づくのは時間がかかるもんだ。結果として、弊社でも何回も議論を重ねては、新しい方針を打ち出すことにした。これが正解とわかるには時間がかかるが、正解にしていけるように頑張りたい。

詰まるところ、未来を考えるって簡単なことのように、意外と難しい。計画通りに物事が行けば、そんな簡単なことはない。一番の難点は、簡単に進めば嬉しいはずが、それはそれでなんだか嫌だつたりする。これが感情の難しいところだ。上手いかなかったり、いろんな困難を乗り越えていくから面白いのかもしれない。未来は明るく楽しい方向をみたいが、それは自分の努力の先にあるからこそ価値があるのかもしれない。我がままな生き物だとつくづく思う。でも、それでいいのかもしれない。残りの今期、そして4年目も楽しめるように、一生懸命考えた計画を軸に頑張っていきたいと思う。

語る、過去と今と未来

Interview File vol.007

このインタビューファイルでは、CLIP Inc. が気になった人をピックアップ。主に起業家、クリエイター、フリーランスなど、多ジャンルの中から様々な形で活躍する方を取材。“過去”“今”“未来”のフェーズ毎に、パーソナルな部分を深堀り。

what's ESSENTIAL Word

もっとバカになる

myRs (マイアーズ) / singer

17歳の頃初めて訪れたクラブでヒップホップに出会い知人のDJから誘われてクラブシンガーをやる事になる。自分で作曲するようになり、まもなくオリジナルアルバムをセルフリリース。2006年には自身でトラック制作も手掛けフルセルフのアルバム piece of me をリリース。その後、日本に帰国し結婚を機に活動休止。10年間音楽を忘れて完全に子育てに専念する。2023年、10年前に叶えられなかった夢をまた叶える為に子育ての傍ら本気で音楽活動を再開。妻であっても、母であっても夢を叶える事にリミットはないということを証明するために国内外問わず勢力的に活動中。



myRs / singer

— 自己紹介をお願いします。

シンガーをしているmyRs(マイアーズ)です。よろしくお願いします。

— 簡単に経歴を教えてください。

18歳の頃から歌手を目指して、様々な場所で歌ってきました。22歳の時に、当時働いていた服飾の仕事の関係でアメリカで仕事をするチャンスをいただきました。すぐに行きたいと申し出たのをきっかけに、渡米を決意しました。アメリカでも音楽活動を続けていると、とあるプロデューサーとの出会いをきっかけにユニットでデビューすることになりました。日本への逆輸入という形でデビューしたものの、様々な理由でユニットを解消。その後は、日本に帰国し結婚を機に音楽活動を休止しました。しかし、昨年(2023年)に10年前の叶えられなかった夢への熱量が加熟し、子育ての傍らで本気の音楽活動を再開することを決意しました。今年は、アルバムやライブなども、表立った活動も多くやっていく予定です。

— 渡米、アーティストデビュー、結婚、出産、活動再開と多くの経験をされていて驚きました。まずは、アメリカでの話から深掘りをさせてください。実際に渡米される際には、躊躇などしなかったのでしょうか。

ためらいなどはありませんでした。というよりも、深く考えていなかったのが正直な本音です。やってみないとわからないじゃん!という精神が昔からあって、考えても仕方ない、やってみようよ!と常に思っていました。だから、当然のようにしなくてもいい失敗もたくさん経験してきました。でも、飛び込んだから

こそ、今の自分があるのも事実なので、当時の決断に対して後悔とか全くないですね。

— 考えすぎないのは大切なことですね。実際に、アメリカでの生活は、どんな毎日だったんですか。

実は渡米して早々に車の事故を連続で3回ほどしてしまい、強制的に日本に帰ってこなければいけない状況だったのが本当です(笑)。心配してくれての選択肢だったはずなんですが、周りにもアメリカへ行くことを公言しちゃったので、どうしてもそんなすぐに帰ることができなくて…。結果的に、仕事は辞めたんですが、そのせいで家や仕事や…と、いきなりのハードモードに直面していました。アルバイトを3個掛け持ちとかしていました。

— いきなりのハードモードですね(笑)正直帰ろうってならなかったんですか。キツすぎると心が折れそうですが…。

最初は帰ろうかなと思ったんですが、頑固な性格が自分を許せなくて、こんなんで帰れない!って結構意地になっていましたね。ただ最初の1年くらいは、結構帰りたくなる瞬間も多かったです。おそらく賢い人たちが想定しているトラブルとかをある程度制覇したかもしれないです(笑)。病気にもなったり、ピザが止まりそうになったり…。あとは英語が話せないのも、それもきつかったです。イエスばかり言っていたら、ハンバーガーが全トッピングされてしまったのは、結構反省でした。

— 最初の1年は、本当にハードだったんだと想像しました(笑)。実際にそこから、どうやってデビューまでの道のりをたどっていくんですか。

バイト先のバーで一緒に働いていた男の子が、実は有名プロデューサーのフィンガスとCDを出すことが決まっていたんですね。その時に、フューチャリングしてくれる女の子を探していて、それで試しに歌ってみたら良いじゃん!ってなったのをきっかけに、何曲かやっていくうちに、自然とユニットでデビューすることになっていきました。

— デビュー後はレコチョク1位などを獲得するなど活躍だったものが、解散された理由は、なんだったんでしょうか。

簡単に言えば方向性の違いという感じですね。私はこのユニットでいくのかなと思っていたんだけど、相手はもっと別にやりたかったことがあって、それぞれの道を行くことにしましたね。その後、1人でも2年くらい活動していたけど、全然上手く行かなくて、疲弊して行ってしまいましたね。

— その後、日本への帰国を決断されていますが、何かきっかけはあったんでしょうか。

特にこれとって…というのはなかったんですが、やっぱりとにかく疲弊していました。ボロボロでしたね(笑)。やること全部が上手く行かなくて、5年のビザも終了するし、これは日本に帰ることを論されているのかなと思って、最後はやり切った感があって、そのまま帰りました。

— 帰国後は、どこに行かれたんですか？

帰国後は一旦故郷の三重に戻ったんですが、そこでの空気があまり合わなくて、それを打開したいと思って自分を奮い立たせて東京に1回行ってみようって、勇気を振り絞って東京にきました。そしたら、なんか色々モヤモヤしていたものが吹っ切れて、すごい来てよかった!って思いました。

— アメリカでの出来事を踏まえると上京っていうのはかなりのチャレンジャーのように思いますが、何がそうさせたんですか。

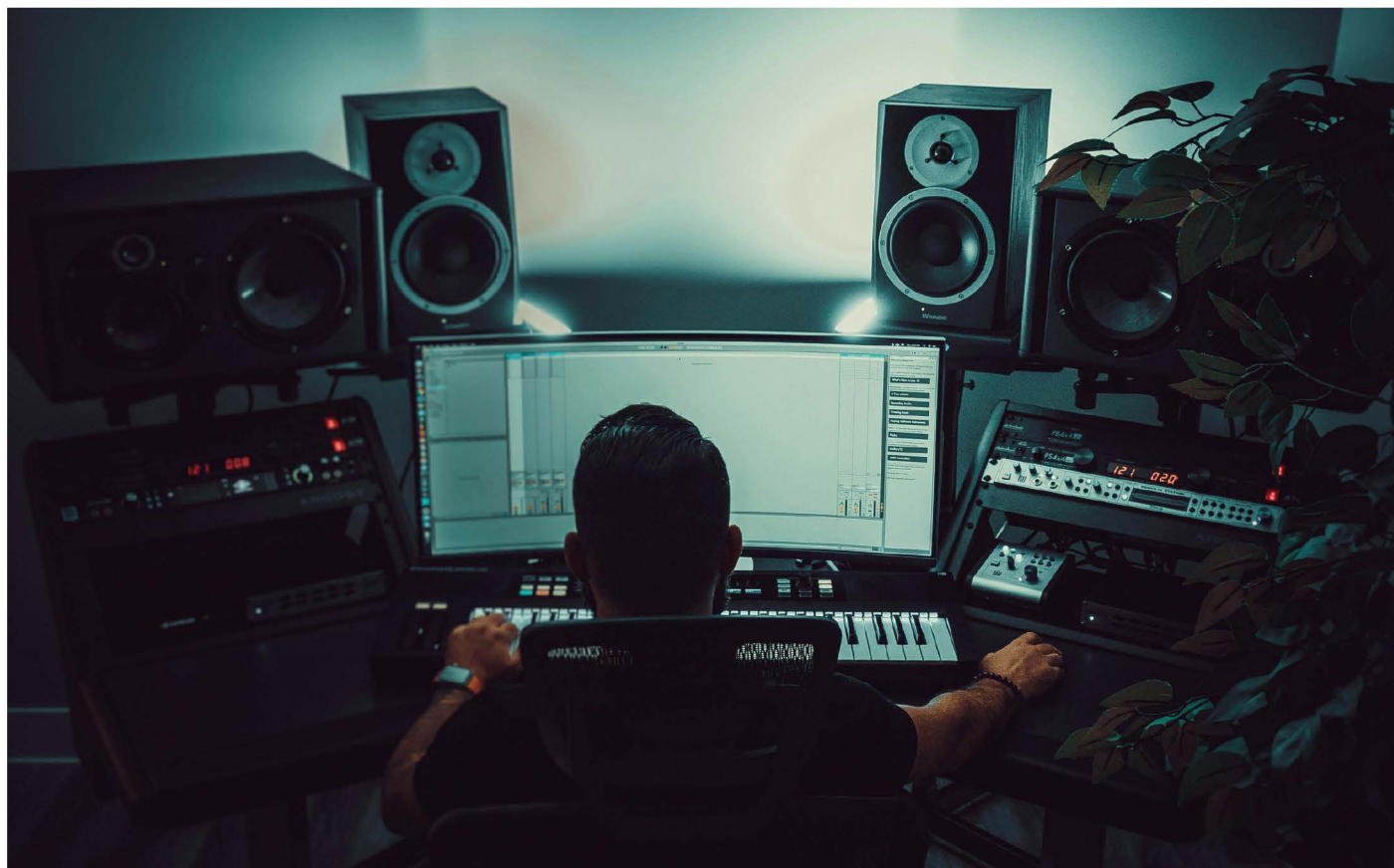
やってやろう!って思っただけで、特に考えていなかったのも事実なんですよね。当時の状況があまりよく無かったし、それを変えたいって気持ちの方が強かった気がします。結局東京でも音楽活動をしたりと、気持ちがどんどん上向きになっていきました。結果来てよかったなって思いました。

— ある意味で考えすぎないで行動することは大事ですね。再起された行動力は、今の10代20代の方々にも参考にしてほしいなと思います。

うーん、参考にするのはよくないかもしれないですが、チャンレジはしてほしいですね。思うのは、今の20代とかの子たちのマインドって、年取ってる感じがしてるんですよね。昔話と比較するとよくないけど、とにかく堅実だなって感じます。飲み会も無かったりと、なんだか寂しさはありますね。

— リスクをあまり取らないというか、常に賢い選択をする方が多いですよね。その良し悪しは難しいですが…。

今と昔を比較すると、全然違うなと思ってしまいますね。そんなに賢くならなくても良いのに…って結構思います。



— 今の若い方には、ぜひこの行動力見習ってほしいですね。話は飛びますが、結婚を機に音楽活動を休止していますが、旦那様との出会いは東京ですか。

実はアメリカにいた時からの出会いなんです、東京で再会したのがきっかけですね。当時はアルバイトを掛け持ちしている学生だったんだけど、再会したときには、自分で会社をやっていたり、すごい頑張っているなって尊敬から発展してお付き合いして、結婚までいました。

— 素敵な再会ですね。おめでとございます。そこからマレーシアに移住されたとのことですが、いつ頃どんな理由で移住されたんですか。

子育ての観点で移住に踏み切ったのが大きいですね。中学受験の選択をせまられているときに、思い切って移住することを決めました。子どもたちの学力も伸び悩んでいた、英語が話せるようになってほしいって気持ちが高まっていたりと、いろんなことが重なって、踏み切りました。旦那さんと、いつか海外で住めたらいいねって話をしていたのもあるので、それほど迷いもなかったですね。

— 素敵な選択だと思います。移住後、今年から音楽活動を再開されていますが、それはどんなきっかけなんですか。

本当に些細なきっかけなんです、幼稚園のパパ友が親父バンドを組みたいって話から、誘ってもらったのがきっかけです。内心どこかでいつかは音楽活動も再開したいと思っていたのもあるんですが、いいきっかけを貰った感じでした。そこからやっていると、なんだかんだ拘りが出てきちゃったりして、ボイトレに通ったりとか、ライブパフォーマンスのレッスン受けたりしました。そこからどんどん音楽の熱が大きくなっていきましたね。

— 一度はリセットしている音楽活動ですが、経験がある分、怖さというか再開することに対する躊躇はなかったんですか。

あまりなかったですね。その時は歌えることがすごい嬉しくて(笑)。いろんな関係から昔のプロデューサーと再会したりと、活動が楽しくなっていました。ボイトレの先生にトラックメーカーの方を紹介してもらったりして、そこからセルフプロデュースをやっていくようになりました。気づけばどんどんやりたいて気持ちが強いんですね。

— やはり行動力がすごいですね。今までの経験が糧になっている分、もっと大きく展開していくのが楽しみです。今後の活動の予定を教えてください。

5月までにシングルを2曲、そして、6月にEPをリリース予定で、そのリリースパーティを7月に帰国するので東京と三重でやる予定です。もう1つ補足したいのは、マレーシアでも活動したいなと思っていて、マレーシアのアーティストとコラボしたり、クラブで歌ったりとか、そういう展開も考えています。

— なんだかすごく楽しそうに話されているのが印象的です。

やっぱり10年の休止を経て活動を再開した時に、音楽ってめっちゃ楽しい!って思ったんですよ。前は、もっと頑張らなきゃ、もっと有名にならなきゃって気持ちが凄く強かったんですけど、今は歌えるだけで幸せなことなんだなって思ってるし、子育てしてる中で自分自身になれる時間って大事だなって思ってます。1つの伝えたいことに、子どもにも好きなことをしてほしいし、親も

好きなことをしていいんだよって、活動を通して伝えたいなって思ってます。性格上、考えるより行動って感じなんで、行動で見せていきたいなって思ってます。私の活動を見て誰かが何かを始めてくれたりすると、凄く嬉しいです。たまにそういうDMをもらったりすると、凄く心が嬉しくなります。

— 昔とは違った伝えたい内容も素敵ですね。ぜひ、読んでいる子育てしている方にも届いてくれたら嬉しいです。最後の質問になりますが、myRsさんにとって、人生で欠かせないこと(必要不可欠)を教えてください。

自分にとって大事なことは、考えるよりも行動することですね。最近もマレーシアに移住してモヤモヤしていた部分もあったんですが、そんな中でも、インスタのDMで現地のラッパーが連絡をくれたり、なんだかいろんなきっかけをくれるタイミングを、考えて失うより行動していこうって思ってます。何をしても、批判も賞賛もあるんだから、どうせなら好きなことしている方が楽しいと思ってるし、そうであってほしいと願ってます。特に若い子とかに言いたいのは、「バカになってください」って伝えたいですね。私のこれからの活動を通して、この言葉が響いてくれたら嬉しいです。

— 行動は本当に大切です。身に染みて共感する部分でもあります。ぜひ、また日本でのライブ、そして音源のリリースも楽しみにしています。今日は、ありがとうございました。

ありがとうございました。



myRs / singer

2024.01.20 My Love


2024.04.23 Never Grow up

2024.05.29 もし明日未来なくしても feat Kiwy

2024年6月 EPリリース予定

2024.07.13 ライブ @渋谷 NOB

2024.07.20 ライブ @伊勢リズム

 myrs_desu





デザイナー デザイナー vol.7

皆さんの中でAIについてよくわかっている、なんて人は結構少ない気がします。驚くほどのスピード感で成長しているからこそ、ついていけない人がほとんどだと理解していますが、それと相反して毎日のように関連ワードも含めてニュースなどで耳にするから、どこかで勉強しなきゃと思ってる人も多いのではないのでしょうか。私も勉強したいと思いつつ、エンジニアから情報を共有したりする程度で、なかなか知識が深まっていきかなりのが現実です。子どもの頃から勉強は苦手ですが、大人になっても変わらないですね。

しかし、今回このテーマを持ち出したのはきっかけがあって、ある記事でデザイナーはAIに取られる仕事のひとつだと書かれていたことから、急に調べ始めたのが現実でした。遅い！なんて声が聞こえてきそうですが、そこはしっかりと胸に秘めておいてください。誰も自分ごとになるとスイッチが入るものですよ。まず先に私なりの結論としては、当分まだデザイナーの仕事がAIに奪われることはないなと思いました。これを良しと捉えるかはなかなか難しい判断になると思いますが、実体験としてchat gptなどを活用したり、そのほかの生成AIソフト等を使った時に、それほどクオリティが高くなかったということからこの判断に至りました。それは指示の仕方が悪いんじゃないか？と思う人もいるかもしれませんが、それも含めてこれからなのかなと思いました。最近では、CMのモデルにも生成AIで作られた架空のモデルが登場したりと、そのクオリティは格段に上がっているのも事実ですよ。ニュースでも話題になったので、知ってる人や実際にCMを見た人も多いと思います。確かにかなりクオリティは高いです。ただ、問題は、生成AIだけで完結しているわけではないということですね。本質的な話をすれば、いつかはAIでサクッとモデルさんを登場させたり、ロゴが作れたり、それもAIで作ったことが分からないほどの


クオリティになったするのは、もう時間の問題だと思います。だからこそ、デザイナーは不要だというのは短絡的すぎるなと思っています。デザイナーにとって重要なのは、その背景です。どうしたデザインをつくらたいのか、どうしてそのデザインを作ろうと思ったのかと言う背景です。デザイナーに限った話ではなく、どんな仕事でもただやるだけだと誰でもできることも多いと思います。ここに職人さんの話などを持ち込むとややこしいですが、多くの仕事と言うざっくりとした程度で話を進めると、重要なのは作るんじゃなくて、その要件をまとめる作業です。これがなかなか難しいと思っています。どうして難しいのかというと、そこには感情が入っているからです。感情を載せることも容易になってくる時代がくるとは思いますが、まだそこは難しい分野なのかなと思っています。今の時代、人手不足だったり、AIで簡単な作業は本当に瞬間的に片付くこともたくさんあります。だから決してAIに仕事が変わるからだめという話ではなくて、共存していくべきだし、すでにそうなりつつあることは間違いなく思っています。


なんだかAIの話も熱く語りましたが、わかっていないこともたくさんあり、不安の残る記事を書きながらも、最近の思ったことを書いてみました。AIってよく分からないんだよなと思ってる人は、世の中たくさんいると思います。でも、そこで実際に少しでも勉強してる人ってどれくらいいるかと思うと、その数は結構少ない気がします。学びに年齢も関係なく、いつになっても年下だろうと年上だろうと、教えてもらったことを素直に吸収できる人でいたいなと思っています。変わることは決して悪いことじゃなく、成長に必要なことと思えば積極的に学ぶ姿勢を忘れないようにしたいです。ぜひ、AIについて詳しい人はクリップ株式会社のデザイナーまでお知らせください。お待ちしております。



思い出の瞬間を イラストに残しませんか？

イベント情報など各種 SNS をチェックしてください。

 @takai_kenshiro

 takai_kenshiro

LINE 公式アカウント▶



イラストレーター

Illustrator

タカイ ケンシロウ
Takai Kenshiro

兵庫、富山を中心に活動するイラストレーター。

